優秀賞

自動火災報知設備訓練装置を活用した事業所の消防訓練指導会

京都府　乙訓消防組合消防本部

事例類型	Ⅳ 他団体との連携　Ⅴ 人材育成
取組期間	令和6年4月から

背　景

当消防本部は、乙訓防火・危険物安全協会の会員事業所に対し、毎年屋内消火栓操法等の競技会を実施していた。競技会は、参加事業所が競い合い、屋内消火栓等の取扱い技術を向上させる非常に良い取組であったが、一方で参加者の人選が困難であり参加事業所が限られている等の課題があった。そんな中、毎年競技会で使用していたグラウンドが再開発により使用不能となった。これが、新しい取組を企画したきっかけである。

「事業所の方々が、災害発生時や普段の消防訓練で不安に感じていることは何か。」
「我々消防職員が、その不安に感じる部分を補うことができる取組は何か。」
「事業所の方々にとって、最も価値のあることは何か。」

予防課一同で様々な案を出し合い、考え抜いて出した答えが、自動火災報知設備訓練装置を活用した消防訓練指導会である。管内にある独立行政法人京都職業能力開発促進センター（以下「ポリテクセンター京都」という。）様に訓練会場のご提供をいただき、管内事業所の方々の理解も得ることができ、この消防訓練指導会を実施することとなった。

内　容

消防訓練指導会では、自動火災報知設備取扱い訓練及び火災想定訓練の2つの訓練を実施した。

1 自動火災報知設備取扱い訓練

(1) 訓練の主眼　自動火災報知設備の仕組みや操作方法を学ぶこと

(2) 訓練内容　自動火災報知設備訓練装置を活用し、参加者全員が受信機、発信機等の操作を実施し、自動火災報知設備に対する知識、技術を高めるものである。

(3) その他　参加者全員が操作できるよう、ポリテクセンター京都様の自動火災報知設備訓練装置1台と当消防本部の訓練装置3台の計4台を配置、各々に消防職員を配置し、参加者一人一人に対応した。

2 火災想定訓練

隊長、通報、消火、避難誘導の4人で訓練を実施するものであり、こちらも自動火災報知設備訓練装置を活用した訓練である。

(1) 訓練の主眼　各役割の動きや相互の連携の動きを習得すること

(2) 訓練想定　2階建て事務所ビル1階から出火、従業員が2階事務所で業務中、自動火災報知設備のベル鳴動に気づき、受信機を確認したところ1階事務所が点灯している。

(3) 訓練内容　火災発見から通報、初期消火を経て避難完了までの訓練とする。隊長は状況把握及び各役割への指示、通報係は在館者への状況説明及び119番通報、消火係は消火器による初期消火、避難誘導係は逃げ遅れの確認及び在館者に避難経路や避難場所を明確に伝えること等を主な役割とする。順位を競うことはなく、セリフにも決まりはない。実火災で直ちに実践できる動きを意識した内容としている。

(4) その他　訓練参加者には役割分担を当日に伝えているため、事前の練習時間を設け、一対一で質問の受け答えができるよう消防職員を配置した。訓練中も補助者として消防職員を各役割に配置。訓練終了後にはフィードバック時間を設け、訓練参加者の様々な質疑に対応した。実りある訓練を実現するため、消防職員による訓練展示の見学時間も設け、訓練参加者一人一人の疑問や不安をなくすよう心掛けた。

3 その他

自動火災報知設備訓練装置については、この指導会のために3台作成した。

受信機、総合盤、感知器については解体される建物から、配線については消防設備業者からのご厚意によりご提供いただいた。訓練装置は、自動火災報知設備としての一般的な操作が可能なうえ、特徴としては以下のとおりである。

(1) 感知器の送り配線、共通線、終端抵抗の確認が可能
(2) 受信機と発信機等を離して設置可能（延長コードあり）
(3) 持ち運びやすいコンパクト収納

成　果

1 消防訓練指導会について

以前の競技会と比べ、多くの事業所の参加があった。参加者の感想としては、
「自動火災報知設備の仕組みが理解でき、訓練が実践的で良かった。」
「火災想定訓練で消防職員の方々にフィードバックいただけたことが有益でした。」
「火災想定訓練で学んだ内容を普段の消防訓練に積極的に取り入れます。」
「他の事業所の方々と訓練ができ、訓練についての情報交換ができて良かった。」
等、前向きな感想が多く、「是非今後も同じ内容で続けて下さい。」と言っていただけている。

複数の事業所と連携を図り、事業所における防火管理体制の充実につながる指導会となった。

2 自動火災報知設備訓練装置について

訓練装置は、指導会以外にも消防職員の勉強の教材になっている。予防課内での教養をはじめとし、指揮隊から消防隊に教養をする等、予防課以外にも人材育成の広がりを見せている。

今後、管内事業所の消防訓練指導の際にも活用することを計画しており、消防職員をはじめ管内事業所の方々の知識、技術の向上に役立つことを期待している。

特記事項

消防訓練指導会は、第1回の開催を終えたばかりであり、まだまだ改善の余地がある。

今後、事業所の方々の意見を積極的に取り入れ、事業所の方々と一緒に指導会を作っていく。

「屋内消火栓の放水訓練がしたい。」「けが人を想定した訓練がしたい。」等、様々な意見もいただいており、完成形にはこだわらず、変化し続ける指導会にしたいと考えている。

柔軟に参加者や時代のニーズに答え、実災害で直ちに実践できる訓練の実現を目指す。